こどもがしるべき

コリントへの

パウロがコリントにったのうち、２のがにされました。コリントへのは、その２のです。

パウロは、コリントにコリントへのをってすぐに、のはいまだにくなっていないというらせをくようになりました。そのため、パウロがコリントをしました。ところが、は、たちではからないによって、にはいめなかったのです。

エペソにったパウロは、コリントのたちのことをえながら「の」をりました。その、ほとんどのがいめるようになりました。しかし、のとなることのために、パウロのについてめないで「の」をえるりのがいました。このとき、パウロがのをすることと、たちがいめることをういから、コリントへのをくようになりました。

コリントへののはのとおりです。

に、パウロのをうにして、えをしました。のは、と、とをさせることであることをらせるためでした。また、されながらも、しながら、させようとするがまことのであるとしました。

つ、しいエルサレムののためのをすすめました。のとになることをして、でなをすることとけうことをしました。

つ、パウロのとのをけれることをしました。パウロのにしてをもってうをにうようしました。さらに、パウロのをけていめることをしました。

のためにとのにあったパウロも、にされました。それだけでなく、にわれ、まれるがありました。しかし、パウロは、のをしてなをせながら、としてのとにして、くとりました。

としてきるレムナントも、ときどきされてしいにうことがあります。そのときごとにしないようにしましょう。パウロのように、ただイエスだけをって、、ごとに、のできておられるのをるレムナントになりましょう。